



Noh
OHTSUKINOH THEATRE



令和六年度 大槻能楽堂 自主公演能 特別公演

大槻能楽堂 創立90周年記念公演



9.15日
開演 14:00

狂言 萩大名 茂山 七五三
Hagidaimyō
能 大原御幸 観世 清和
Oharagokou

10.27日
開演 14:00

狂言 栗田口 野村 万作
Awataguchi
能 屋 島 大槻 文藏
野村 萬齋
Yashima 弓 流
奈須與市語
語 掛

11.30土
開演 14:00

狂言 呂 蓮 三宅 右近
Roren
能 井 筒 友枝 昭世
Izutsu



茂山 七五三 観世 清和 野村 万作 大槻 文藏 野村 萬齋 三宅 右近 友枝 昭世

音声による上演前の解説(日英)

[能一番] 100円
[能(狂言も含む)二番以上] 200円
開演前や休憩中などにぜひご利用ください。
※上演中はご利用いただけません。

大槻能楽堂

主催：公益財団法人大槻能楽堂

助成：大阪府助成



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
[公式サイト] noh-kyogen.com

公演パンフレット「おもて」
季刊発行(詞章・あらすじ等を掲載)
1冊:1000円(定価)



狂言 萩大名

シテ 大名 茂山七五三
アド 太郎冠者 茂山 宗彦
アド 庭の亭主 網谷 正美
後見 鈴木 実

長引く在京の退屈しのぎに、萩が美しいと評判の庭を見物しに行くことにした田舎の大名。困ったことに、庭の亭主は必ず客に歌を所望するらしく、歌の詠めない無粋な大名のために太郎冠者が、聞き覚えた歌を教える。――

見どころは何と言っても愛嬌あふれる二世茂山七五三(人間国宝)の大名。それぞれの役を勤める役者の持ち味や顔合わせによって、大名と太郎冠者の印象や関係性が微妙に違って見えるのも、この作品の面白いところだ。

休憩

能 大原御幸

前シテ 建礼門院 観世 清和
後シテ 後白河法皇 大槻 文蔵
ツレ 阿波内侍 坂口 貴信
ツレ 大納言局 林 宗一郎
ワキ 万里小路中納言 福王 茂十郎
ワキツレ 大臣 福王 和幸
ワキツレ 興泉 福王 知登
ワキツレ 〃 喜多 雅人

アイ 従者 茂山千之丞

笛 杉 市和
小鼓 飯田 清一
大鼓 河村 大
後見 上野 朝義
赤松 禎友

地謡 岡 久広
上田 貴弘
上田 拓司
上野 雄三
武富 康之
齊藤 信輔
井上裕之真
大槻 裕一

(終演予定時刻16時45分頃)

女院(建礼門院徳子)は、壇ノ浦の戦いで我が子・安徳天皇と母・二位尼の後を追って入水したが、心ならずも源氏方に助け上げられ、命を承らえた。後に出家した女院は、山間の大原の里の寂光院に隠棲し、大納言局や阿波内侍とともに、心静かに安徳天皇と一門の菩提を弔う日々を送っていた。そんなある日、平家を滅ぼした張本人ともいえる後白河法皇が、大原に御幸する。――

親世流二十六世宗家・観世清和(文化功労者・日本芸術院会員)の女院、法皇に大槻文蔵を配する贅沢な顔合わせによる壮大な歴史絵巻『平家物語』の最終章である。

狂言 栗田口

シテ 大名 野村 万作
アド 太郎冠者 野村 太一郎
アド すっぱ 野村 裕基
後見 内藤 連

近頃流行りの道具比べ。この度は「栗田口」を競うという。大名は、「栗田口」を持っていなかったため、太郎冠者に大金を持たせて都へ買いに行かせるが、大名も太郎冠者も「栗田口」がどんなものか知らなかった。――

「栗田口」は有名な刀鍛冶の一派の家名にして、その作の太刀のこと。主従は二人して、まんまと「すっぱ」(パテン師)にだまされる。野村万作(2023年文化勲章受章・文化功労者・日本芸術院会員・人間国宝)の絶妙な至芸を味わいたい。

休憩

能 屋島

前シテ 漁翁 大槻 文蔵
後シテ 源義経の霊 大槻 裕一
ツレ 漁夫 福王 知登
ワキ 旅僧 喜多 雅人
ワキツレ 徒僧 廣谷 和夫

アイ 屋島の浦人 野村 萬斎

笛 竹市 学
小鼓 観世新九郎
大鼓 亀井 広忠

後見 齊藤 信隆
赤松 禎友
武富 康之

地謡 観世 喜正
上田 拓司
上野 雄三
寺澤 幸祐
山本 正人
齊藤 信輔
水田 雄悟
山田 薫

(終演予定時刻16時55分頃)

臘月の光が波間にきらめく讃岐国屋島の浦。旅の僧は、老漁夫の塩屋に一夜の宿を乞う。はじめは粗末なことを恥じて断る老漁夫だったが、僧が都の者だと知って塩屋に招き入れ涙ぐむ。そして、僧に所望されて屋島の合戦のありさまを語り、自らを源義経とほめかして消えた。その夜、僧の夢に、義経の霊が甲冑姿で現れる。――

見どころ満載の小書(特殊演出)で大槻文蔵(文化功労者・人間国宝)の真骨頂を存分にご覧いただきたい。加えて、関西ではなかなか見ることのできない囃子の顔合わせや野村萬斎の「奈須興市語」も見逃せない舞台だ。

狂言 呂蓮

シテ 旅僧 三宅 右近
アド 宿の主人 三宅 右矩
アド 妻 三宅 近成
後見 前田 晃一

旅の僧が、宿の主人に説法するうちに、すっかり感動した主人が僧の弟子になって出家したいと言いつす。主人の妻も承知の上だと云うので、僧は、亭主の頭を割ってやり、衣を与えるが、それを見た妻が怒り出す。――

主人が蓮の字のついた法名を付けてほしいというので、僧が、「いろは」を組み合わせて適当に作った候補を次々と挙げるのが面白い。東京から名手・三宅右近を迎えて、子息の右矩・近成兄弟との息の合った舞台を楽しみたい。

休憩

能 井筒

前シテ 里女 友枝 昭世
後シテ 有常の娘 宝生 欣哉
ワキ 旅僧 三宅 近成

アイ 里人 三宅 近成

笛 松田 弘之
小鼓 成田 達志
大鼓 山本 哲也

後見 友枝 雄人
中村 邦生

地謡 出雲 康雅
長島 茂
狩野 了一
高林 呻二
佐々木多門
金子敬一郎
内田 成信
友枝 真也

(終演予定時刻16時40分頃)

昔、井筒の傍らで遊び、水面に互いの姿を映して心を通わせた幼い恋は、大人になって成就して、二人は夫婦になった。やがて、男には山一つ向こうに通うところができ、女は、夫の姿を黙って見送った。中秋の在原寺に現れた女が、月光の下で語る恋の記憶。「井筒の女」、またの名を「人待つ女」と呼ばれた女の魂は、恋の絶頂を実感できた井筒の傍らに、いつまでも漂い続ける。――

世阿弥の不朽の名作。友枝昭世(日本芸術院会員・人間国宝)のシテに加え、ワキに宝生欣哉(人間国宝)、笛に松田弘之をいずれも東京から迎える必見の舞台である。

(石淵文恵)

入場料金	席種	前売	当日
	S席	9,900円	10,900円
A席	7,700円	8,700円	
B席	6,600円	7,600円	
学生(B席)	4,400円	5,400円	
U-25 25歳以下(B席)	席数限定 2,000円	席数限定 3,000円	

※友の会：割引特典あり

チケット発売日	公演	友の会	一般
	9/15	大原御幸	7/5
10/27	屋島	8/16	8/27
11/30	井筒	9/20	9/30

※当日券は開演の1時間前より販売

3公演 セット券	S席	28,000円	先行発売 6/27 一般発売 7/2
	A席	21,000円	
	B席	18,000円	

●大槻能楽堂ホームページ(発売日10:00~)
<https://noh-kyogen.com/ticket/>
●大槻能楽堂 事務局(11:00~16:00 不定休)
TEL 06-6761-8055

会場 大槻能楽堂
大阪市中央区上町A番7号

- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。
(⑪号出口にエレベーター有)
または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。
(⑦号出口にエレベーター有)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。

一歩踏み込んだ解説講座はいかがでしょうか?
月イチ能楽講座in大槻能楽堂

講師	大槻裕一・成田奏
講座内容	9/5(木)19時~ 演目「大原御幸」 10/21(月)19時~ 演目「屋島」 11/25(月)19時~ 演目「井筒」
料金	2,000円
申込	右記QRコードを読み取り、申込フォームをご送信ください。



※駐車場・駐輪場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいませよう、お願い申し上げます。
※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。
※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。